

人として

筑後市社会福祉協議会

(〒833-0032 筑後市野町680-1)

TEL 52-3969

FAX 53-6677

Mail info@chikugo-shakyo.or.jp

URL http://www.chikugo-shakyo.or.jp

私たちの手で 私たちのまちを 福祉のまちに…それが社会福祉協議会の目標です。

介護家族の会 コスモス 記念講演会

認知症の母の介護体験から



うな弁当を持たせようと思いました。
「今日は学食で食べるから」と言うのと
悲しそうに冷蔵庫にしまっていました。
た。その姿を見て「やっぱり持ってい
いく」と受け取りました。正直、美
味しくはありませんでした。しかし、
これが母の作る最後の弁当だと思い
ながら食べました。

喜ばせるために

植えたスイカ

4月16日(日)、介護家族の会コス
モス(以下、コスモス)では、記念講
演会が行われました。九州大谷短期
大学の中村秀一先生よりご自身の介
護体験をお話していただきました。

タイムスリップした母の

最後のお弁当

ある日の朝、認知症の母が弁当を
作っていました。自分のことを40代
息子である僕を高校生だと思ってい
たからです。料理上手だった母も料
理ができなくなり、食べられないよ

果物が好きな母のために、スイカ
を植えました。しかし、母は小さい
まだ美味しくないスイカを収穫して
しまいます。何度「獲らないで」と
伝えても、収穫し嬉しそうに母。頭
にきて母の帽子のつばをポンと叩い
てしまいました。つばを上げた母の
顔はとても悲しそうでした。
母を喜ばせようと思って植えたは
ずのスイカ。反対に悲しい思いをさ
せてしまった…と、自分が嫌になり
ました。
それからは、喜んでくれればいい
と小さいスイカを収穫する母を許す

ようになりました。

後悔ではなく、自身の体験を

持ち寄って

どうしたら笑顔になってくれるか
と試行錯誤しながら介護をしてい
ても、「もっとこうすればよかった」
と思うことがあります。

後悔するのではなく、その経験か
ら身についたものがあります。今、
大変な思いをしながら介護をして
いる方に、コスモスのような活動の中
で、繋いでいってもらえればと思
います。

介護者同士が交流できる会

介護家族の会コスモス に入会しませんか？

定例会では、介護の悩みを語り合いながら、
介護のヒントをもらったり、介護のストレス
解消の取組みを行なっています。

問合せ 筑後市介護家族の会コスモス
TEL 52-3969
(筑後市社会福祉協議会内)

株式会社プレシア

スイーツで社会貢献を



スイーツのご寄付

食品添加物なるべく使わずに、消費期限を延長するための技術開発や、ロールケーキの切れ端など廃棄される部分の再利用など、食品ロスの削減にも取り組んでおられます。そして今回、美味しいスイーツで笑顔を届けたい。そんな想いも重なり、筑後市社協へスイーツの寄付をいただけることとなりました。それに先立ち、3月27日、協定を結びました。

フードパントリーや

イベント時に

右(株)プレシア
梅津 貞治 福岡工場長
左 筑後市社会福祉協議会
津留 洋子 会長

株式会社プレシアは、市内下北島に工場があり、コンビニやスーパーなどで販売されるスイーツの製造を行っています。

毎月実施するフードパントリー等の食品配布や、イベントにいられた方に、寄付頂いた焼き菓子やパフェなどのスイーツをお渡ししています。受け取った方は、「いいんですか?」「嬉しいです」と笑顔で帰られ、とても喜ばれています。今後、さらなる活用について検討していきます。

筑後市点訳グループ「むつみ会」
点訳ボランティア入門講座

とき (10:00~12:00)	内容
第1回目 5月29日(月)	視覚障害当事者の話 講習①「点字の基礎」
第2回目 6月5日(月)	講習② 「言葉を点字で打つ」
第3回目 6月12日(月)	講習③ 「文章を点字で打つ」
第4回目 6月19日(月)	講習④ 「点訳してみよう」
第5回目 6月26日(月)	お疲れ様会 交流会 パソコン点訳の紹介

会場：筑後市総合福祉センター1階会議室
参加：市内外、参加できる回のみでも可
講師：むつみ会会員
参加費：無料
問合せ：点訳グループ「むつみ会」
申込み TEL：52-3969
FAX：53-6677

不登校・ひきこもり家族会
サルビアの会 学習会

3月18日(土)、「発達特性を有する子どもの理解と支援」をテーマに学習会を行いました。(講師：河浦龍生さん/福岡市子ども家庭支援センターはぐはぐ)

「発達特性に加え、虐待や過保護、貧困などさまざまな環境が重なり、アタッチメント*に問題が生じることがある。「孤立させる」などの心身の発達を妨げる関わりではなく、強みを見出し、好きなことに集中して取り組む環境が重要」など、話されました。

* 不安な時に信頼できる人にくっつき
安心しようとする行動

ひとり親家庭のための学習支援

新年度が始まりました



今年度もひとり親家庭の学習支援が始まりました。現在16名の小学生と中学生が毎週火曜日の19時～21時まで学習しています。勉強を教えて下さるのは、教員OBや大学生などのボランティアの方々です。宿題や授業の補習などの学習支援・見守りを行なっています。

今回は、利用する保護者とボランティアの方に、学習支援の良いところを聞きました。

保護者より

- 勉強に集中できる環境があり、分からないところを、教えてもらえて復習もできる。
- 学校で分からないところを、一人ひとりに先生がついてほばマンツーマンで教えてもらえる。
- 塾などに通うのが難しいひとり親家庭にとっては、こういった場所で子どもたちが勉強できることはすごく助かる。
- 子ども自身が楽しく通っている。

ボランティアより

- 一人ひとりのペースに合わせ、得意なこと苦手なことを指導できる。
- ドリルなどの用意もあるので宿題を終えた子どもたちも遊ばずに学習することができている。
- 保護者の方やボランティアの方との情報交換などの交流が楽しい。
- 自分の特技である勉強を教えるこ

とを活かせるので楽しく活動している。

- いろいろな学校から児童・生徒が集まるため、他の学校の子と知り合え、勉強だけでなく、コミュニケーションの機会が増えている。

まずは見学に

学習だけでなく、児童・生徒、ボランティアの先生、保護者とが情報交換や交流しながら、充実した時間を過ごしています。

教室の雰囲気や、学習の様子をぜひ一度見学に来てみませんか？

筑後市母(父)子寡婦福祉会

ひとり親と子のための 学習支援教室

とき 毎週火曜日 19:00～21:00

会場 筑後市総合福祉センター(野町680-1)

利用料 無料

対象 ひとり親家庭の小学生・中学生



ひきこもり家族相談会

とき 5月18日(木) 13:00～16:00

★5月11日(木) 17時までに要予約

(1日限定3名・匿名可)★原則来所での相談

ところ 筑後市総合福祉センター(野町680-1)

精神障害のある人のための
居場所・交流スペース

かたる～む

★5月の開設日のお知らせ★

とき 5月12・26日(金) 13:30～15:00

★予約不要・時間内出入り自由

ところ 筑後市総合福祉センター(野町680-1)

問合せ&申込み

筑後市社会福祉協議会

TEL 52-3969 FAX 53-6677
Mail info@chikugo-shakyo.or.jp

社会福祉事業資金寄付

★ 香典返し寄付の部 ★

洲上 佳博様 (故 みどり様) 水田上
 大鶴 美恵子様 (故 道治様) 山ノ井東
 宮本 映子様 (故 一夫様) 久富
 伊藤 睦子様 (故 慶治様) 下富久
 田中 和之様 (故 フサ工様) 鶴田
 横枕 和子様 (故 正夫様) 溝口町
 鶴 好助様 (故 ミヨノ様)
 大久保 正一様 (故 輝子様) みやま市
 田島 榮子様 (故 良明様) 鶴田
 馬場 信敏様 (故 絹代様) 和泉西
 富重

★ 一般寄付の部 ★

○上北島第1隣組様から現金の寄付がありました。
 ○城後ナオ子様(八女市)から現金の寄付がありました。
 ○篠原克臣様(和泉東)から現金の寄付がありました。

★ 計 二八三、四四八円

善意奉仕銀行寄付

● 預託の部 (物品口座)

○匿名様より食品の寄付がありました。

子育て世代を食で応援! プロジェクト



市民の皆様から寄付いただいた食品(お米、インスタント食品、乾麺、調味料、フリーズドライスープ類など)を無料配布します。

日程: 5月12日(金) 18:00~19:00

対象: 小中学生の子どもがいる世帯

※数に限りがあります

※1世帯1セットの配布です

※筑後市在住の方に限ります

※ひとり親家庭の方は除きます。偶数月第2週目に実施する「ひとり親家庭のためのフードパントリー」をぜひご利用ください。

会場: 筑後市総合福祉センター

○事前の申込みは不要です。直接お越しください。

問合せ/ 筑後市社会福祉協議会

TEL 52-3969 FAX 53-6677

Mail info@chikugo-shakyo.or.jp



○野田製菓様(八女市)より黒棒の寄付がありました。
 ○宮本映子様(久富)より車イス、ポータブルトイレ、浴室用イス、尿パットの寄付がありました。
 ○ユーコーラッキー37筑後店様(食近)よりお菓子の寄付がありました。
 ○立山康弘様(和泉中)より野菜の寄付がありました。
 ○匿名様より子ども用紙オムツの寄付がありました。
 ○田中千代子様(蔵敷)よりポータブルトイレ、紙オムツ等の寄付がありました。

赤い羽根共同募金
下のQRコードから、共同募金への寄付と、使いみちの検索ができます。



○九州システム産業(株)様(中折地)より子ども用マスクの寄付がありました。
 ○古賀律子様(志)より子ども用車イスの寄付がありました。
 ○JAふくおか八女やらん野様(前津)より野菜の寄付がありました。
 ○(株)プレシア様(下北島)よりお菓子の寄付がありました。
【いずれも3月1日~3月31日まで】

事務局通信

先日ある写真家の写真展へ行きました。彼女は、12年間、毎月11日の月命日に東北へ向かっています。

13回忌となった今年、出版した写真集のインタビューで「あれほどのこと、乗り越えられない。乗り越えるのではなく抱きしめる。そんな気持ちで通っている」と語っています。

また、その写真家を知るきっかけとなった福島県出身のシンガーソングライター。彼女もまた福島をはじめ、熊本、南阿蘇などでのボランティア活動を行なっています。

「自分にできることがなくて、ボランティア活動に参加するのが怖くなったこともあった。でも、沢山の地域の人と出会い自分自身が元気をもらっていることに気づいた。一緒にこたつに入ってお酒を呑んで、今はその人たちに会いに行っている」と、ライブのMCで語っていました。当事者でないと分からない気持ち。それでも、直接会って、見て想像する。震災だけでなく、誰もが生きやすいまちづくりには大切なことだと思えます。当事者でなくても寄り添い続けることはできる。2人の言葉に改めて気づかされました。(寒)